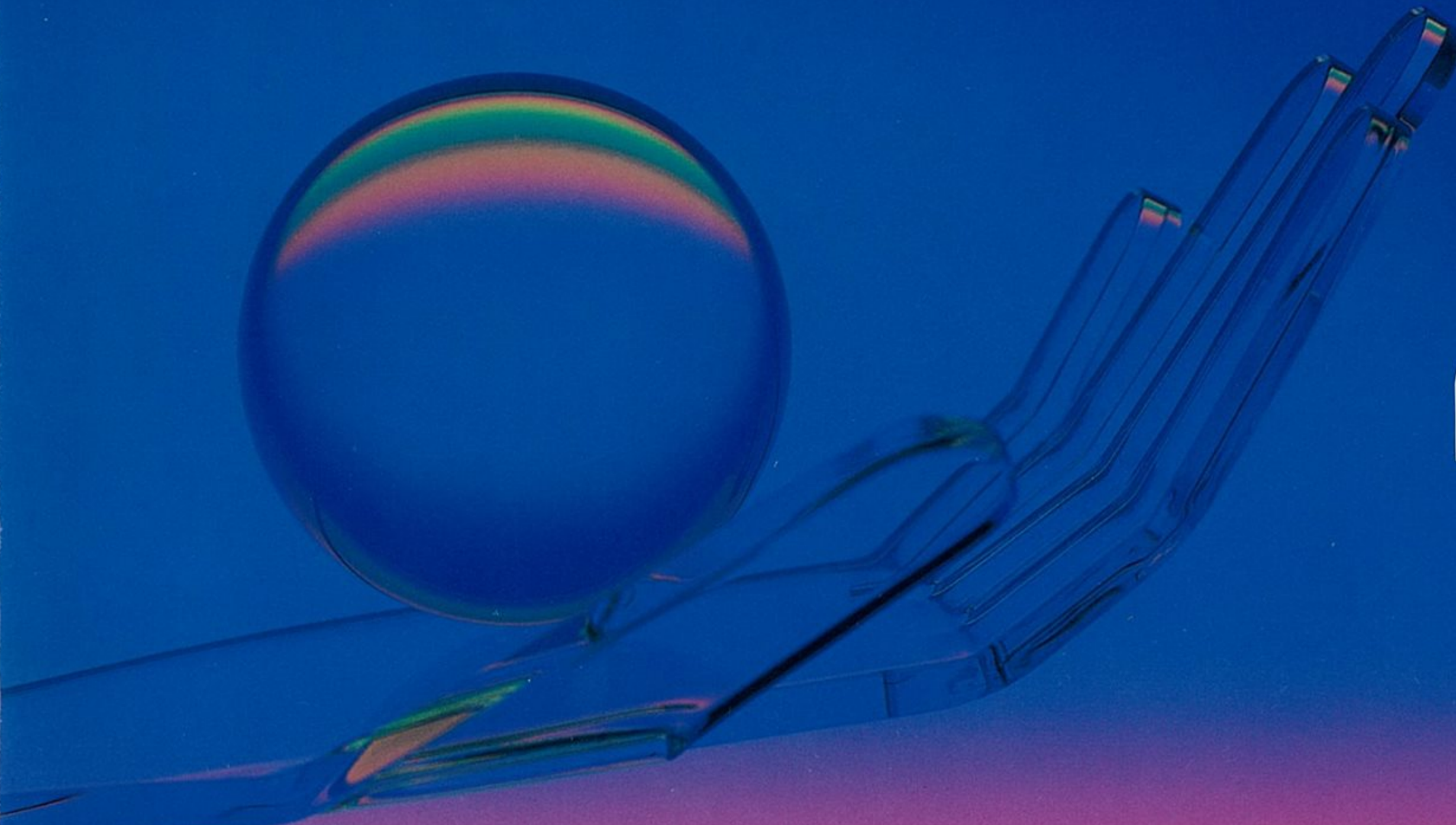
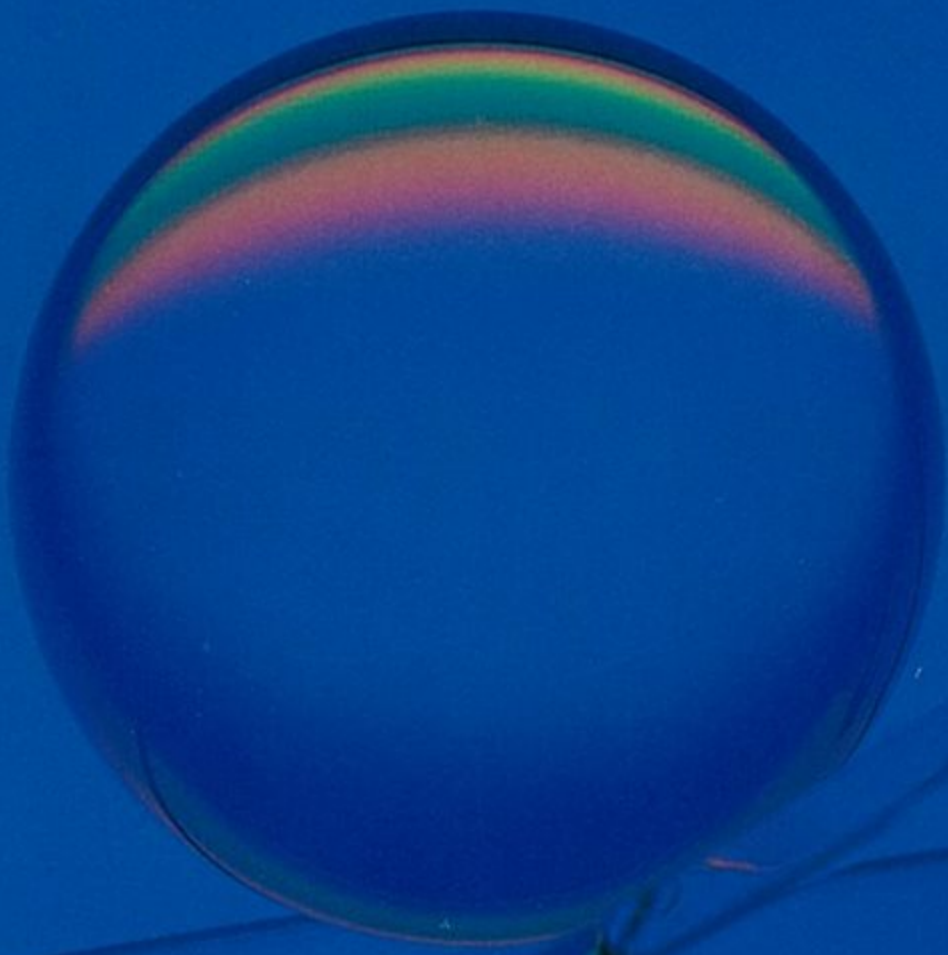




会社案内



# 創造工学の未来図を描きながら。

## ごあいさつ

21世紀まであと十余年。遠い未来と思われていたことが、しだいに近づき、視界の中に入ってこようとしています。セガ・エンタープライゼスは、高度情報化の一翼を担う企業として、21世紀への中長期ビジョンを立てながら新しい時代の未来図を着々と描き出しています。

昭和26年、セガは日本に初めてアミューズメントマシンを紹介して以来、LSI、超LSIなど最先端のエレクトロニクス技術を率先して導入。業界発展の中心的な役割を果たしてまいりました。この間、日本はもとより、広く世界のマーケットに向けてグローバルな事業活動を展開し、「技術のセガ」として高い評価を得ております。

現在では、アミューズメント産業も高度な先端技術を駆使したハイテク産業へと変貌をとげ、新たな飛躍への期待に満ちています。そして、このハイテクエンターテイメントの分野に多大な影響を与え、未来を担っているのがセガといえましょう。遊びが多様化し、ますます高度な「ハイテクエンターテイメント」が求められている今日。時代の求める「知的創造性」を最先端のコンピュータ・テクノロジーと結びつけ、さらに新たな革新を創り出していくこと——これこそがセガ・エンタープライゼスの目指すハイテクエンターテイメント「創造工学」の思想であり、21世紀社会へ貢献する企業理念の根幹であると考えます。

新時代のニーズに対応すべく、当社は事業分野を拡大し、家庭用テレビゲーム、エレクトロニクス・トイ、そしてCAIによるホームエデュケーションの推進など、ホームエレクトロニクスの分野に参入し、コンシューマ市場でも大きな役割を担っています。この他、ニューメディア、ニュービジネス分野など、セガが指向する人間性豊かなコンピュータ社会へ向けて着々と研究開発を進めております。

社会的評価、認知が一段と高まる中、総合ハイテクエンターテイメント企業として、独自の創造哲学と創造工学とをいかに発揮しつつ、未来への挑戦を続けてまいります。



代表取締役社長

## 中山隼雄



## 会社概要

会社名	株式会社セガ・エンタープライゼス		
所在地	〒144 東京都大田区羽田1丁目2番12号 TEL 03(743)7430		
商標	<b>SEGA</b>		
設立	昭和35年6月3日(創業昭和26年4月)		
資本金	816,140万円		
従業員数	1,350名		
年商	470億円(昭和63年4月期決算予測)		
決算期	4月30日(年1回)		
役員	代表取締役会長	大川 功	
	代表取締役社長	中山 隼雄	
	専務取締役	駒井 徳造	
	取締役製造本部長	北村 裕昭	
	取締役販売事業部長	小形 武徳	
	取締役社長室長兼管理本部長	中村 俊一	
	取締役営業事業部長	永井 明	
	取締役研究開発本部長	鈴木 久司	
	取締役経営戦略室長兼 営業事業部長補佐	和知 満男	
	取締役海外担当	デヴィット・ローゼン	
	取締役	湯川 英一	
	取締役	森 健治郎	
	取締役	岩田 巍	
	取締役	藤枝 純教	
	取締役	北之園英博	
	常勤監査役	小林 新吉	
	監査役	外立 憲治	
	監査役	宮崎 金助	
取引銀行	住友銀行・日比谷支店 三和銀行・赤坂支店 住友信託銀行・新宿支店 協和銀行・ 新宿西口支店 日本長期信用銀行・本店 百十四銀行・東京支店 東洋信託銀行・渋谷支店 横浜銀行・蒲田支店		

## 事業内容

- 各種ビデオ・ゲーム、アミューズメントマシンおよび関連電子機器の製造・販売・輸出入、アミューズメント・センターの企画・設計・設置・運営
- 家庭用テレビゲーム機、教育機器・玩具・娯楽用品および各種周辺機器、ソフト類の製造、販売、輸出
- 両替機その他電子機器ならびにシステムの製造、販売  
プリペイド・カードシステムの販売およびコンサルティング業務

## 関連会社

- セガ エンタープライゼス、インク。(U.S.A)
- セガ オブ アメリカ、インク。
- セガ ヨーロッパ リミテッド
- タイムアウト ファミリー アミューズメント センターズ、インク。
- 株式会社セガ・エデュケーション システム
- リングフォン・ジャパン株式会社
- 株式会社CSK
- 株式会社シー・エス・ケイ総合研究所
- 共同VAN株式会社
- 日本カードセンター株式会社 他11社

## 沿革

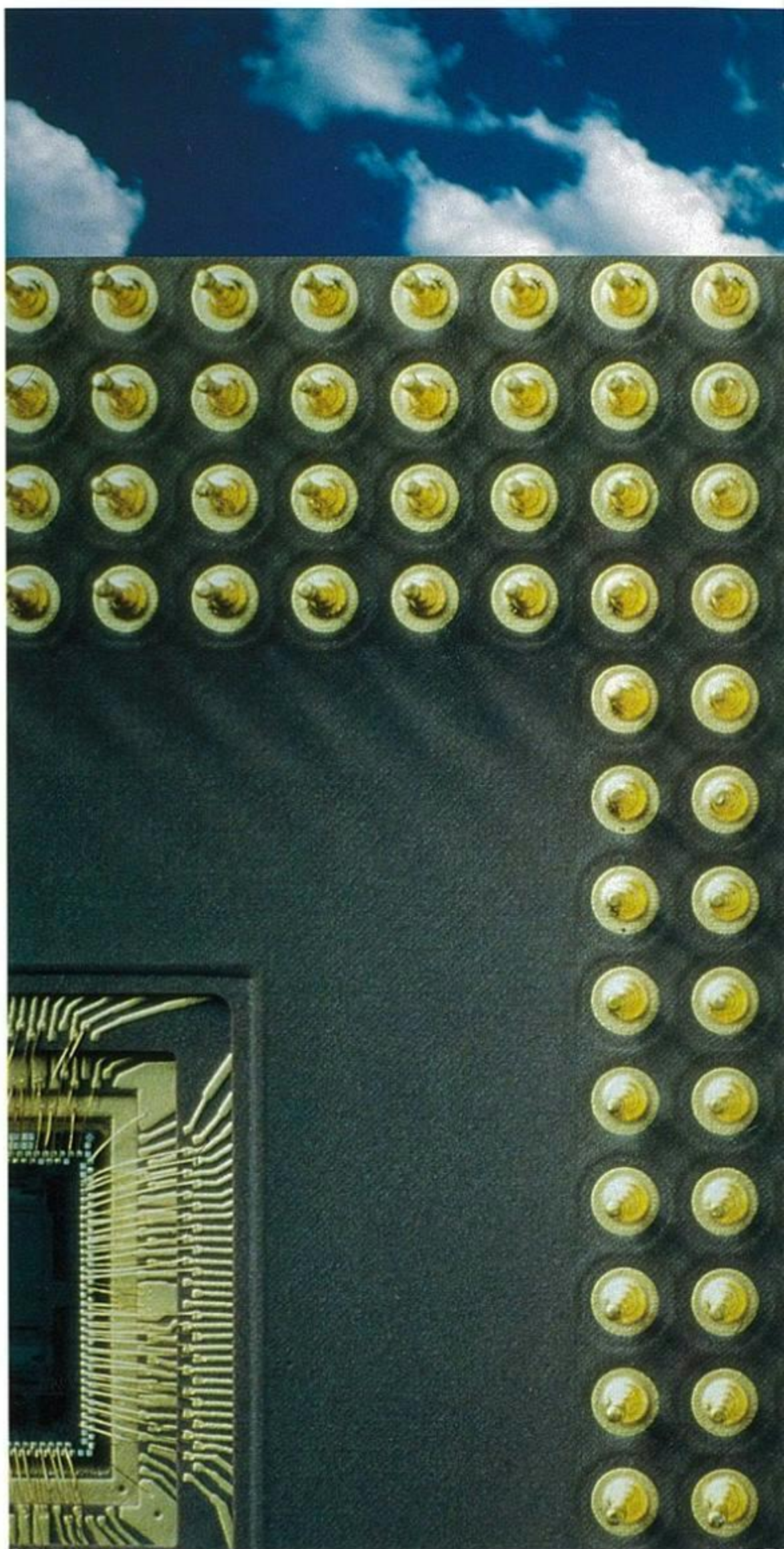
- |          |  |
|----------|--|
| 昭和26年4月  | 創業   |
| 昭和35年6月  | 日本娯楽物産(株)設立(資本金900万円、昭和40年7月商号(株)セガ・エンタープライゼスに変更)                        |
| 昭和39年4月  | 資本金3,600万円に増資  |
| 昭和39年6月  | 日本機械製造(株)吸収合併(資本金8,800万円)、業務用アミューズメント機器の製造開始                             |
| 昭和40年7月  | (株)ローゼン・エンタープライゼス吸収合併(資本金10,353万円)、ゲームセンターの運営開始                          |
| 昭和41年1月  | 資本金11,853万円に増資   |
| 昭和41年7月  | 資本金15,003万円に増資   |
| 昭和44年3月  | ゴルフ アンド ウェスタン インダストリーズ、インク。の傘下に入る  |
| 昭和58年7月  | 資本金45,003万円に増資   |
| 昭和59年4月  | CSKグループの資本参加により、CSKグループの一員となる  |
| 昭和59年7月  | 当社100%出資子会社セガ ヨーロッパ リミテッド設立  |
| 昭和60年3月  | 当社100%出資子会社セガ エンタープライゼス、インク。(U.S.A.)設立(昭和62年8月セガ オブ アメリカ、インク。へ株式を100%譲渡) |
| 昭和60年10月 | 資本金202,440万円に増資  |
| 昭和61年3月  | 当社100%出資子会社セガ オブ アメリカ、インク。設立   |
| 昭和61年11月 | 当社株式東京店頭市場に新規登録  |
| 昭和61年12月 | セガ オブ アメリカ、インク。によるタイムアウト ファミリーアミューズメント センターズ、インク。買収                      |
| 昭和62年1月  | (株)セガ・エデュケーション システム(旧社名(株)幼総研)を傘下に                                       |
| 昭和62年6月  | リングフォン・ジャパン(株)へ出資、語学教育分野へ拡大をはかる  |
| 昭和63年4月  | 当社株式東京証券取引所市場第二部に上場<br>資本金816,140万円に増資                                   |

# 感性を刺激する、知性を磨く——SEGAの創造

知に遊び、感性に遊び、人は驚異的なスピードで文明を築いてきました。

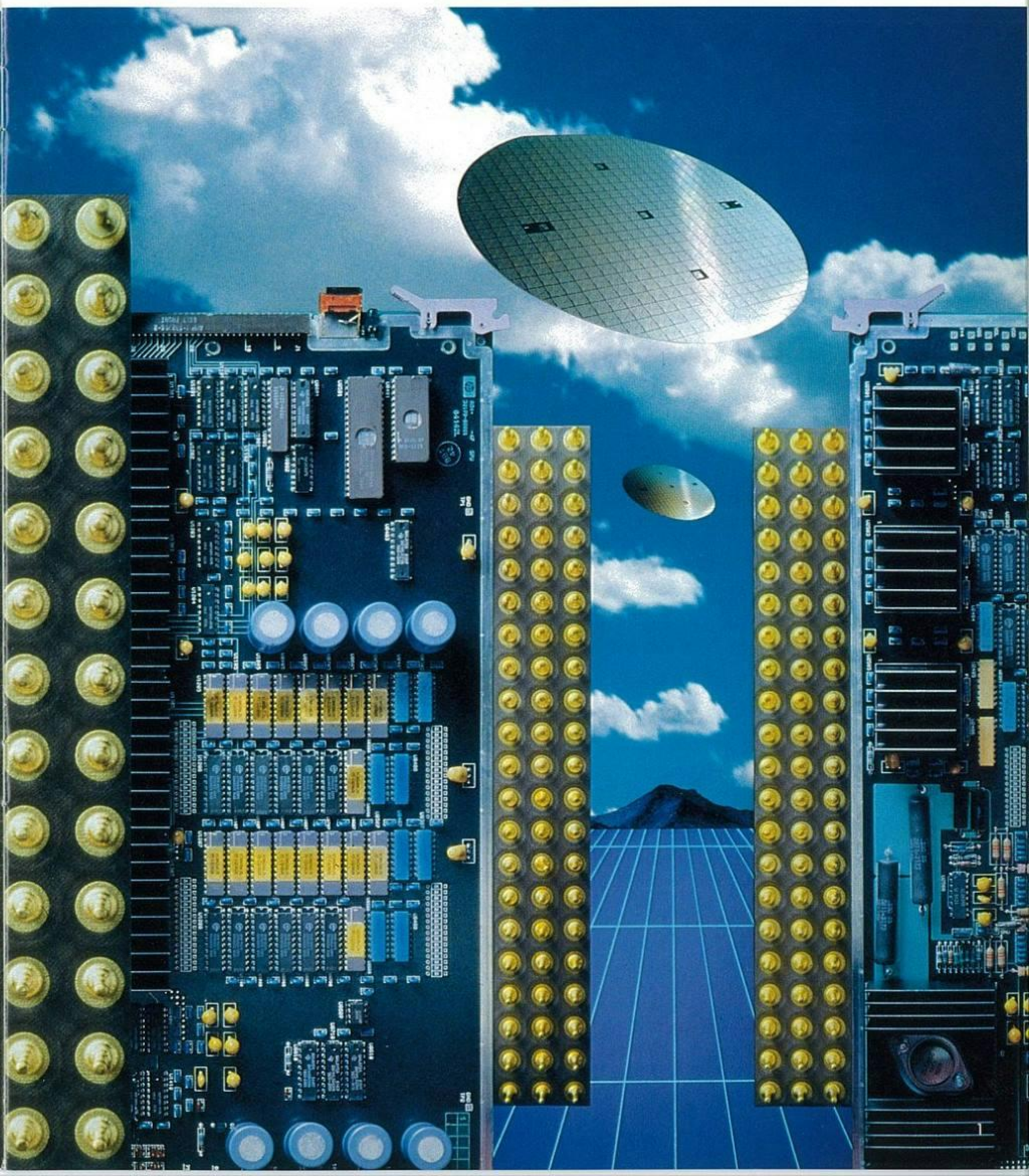
ビッグバンにより宇宙が生まれ、やがて地球が誕生し、人類が登場。人類100万年の歴史のうち、火を発見し文明を築き上げてから1万年。わずか1%の時代が、いかに加速度的な進歩の時代であったことか——。そして、コンピュータを駆使している現在、またこれからの時代が、いかに無限の可能性を秘めていることか——。

その可能性を着々と現実化する力は、時代に先がける高度なテクノロジーと豊かなイメージネーションだ、とセガは確信しています。実際にセガの持つ未来指向型の開発精神と、最新技術への果敢なチャレンジは、つねに新たな創造工学の世界を切り拓いてきました。そしていま、21世紀の未知の領域へと目を向けています。そこにあるのは、人間の豊かな感性を刺激し、知的創造力を磨く、創造工学の結晶ともいべきセガの製品群です。



工学

High-tech  
Entertainment **SEGA**



# 遊びの高度化とともに、よりエキサイティングなアメニ

昭和26年にいち早くアミューズメント事業に着手した当社は、常に先端技術の導入とテクノロジーの革新に努め、いつの時代にも多くの話題を提供してきました。最近では、フジサンケイグループとタイアップした「夢工場'87」において、超リアリズムテレビゲーム館を施設運営。時速300kmを体感できるスーパーリアリズム・レーシングゲーム「スーパーゲームZ」や「3Dテレビゲーム」(立体テレビゲーム)など、リーディング・カンパニーとしての実力をいかに発揮しました。

時代とともに遊びが進歩、高度化するにつれて、セガのアミューズメントマシンも高度化、多様化をとげ、より知的でハイレベルな製品開発をおこなっています。画面は色彩にあふれ緻密な構成を持って視覚に迫り、ゲームのシナリオもストーリー性、ドラマ性を強め、コンピュータ・グラフィックスが新たな芸術的表現手段として脚光を浴びるまでに至りました。セガが新境地を開拓した「体感ゲーム」シリーズ、とくに第6弾の超最新鋭ジェット戦闘機の空中戦を題材にした「アフターバーナー」はその代表格といえます。テクノロジーとイマジネーションの結合である「創造工学」、これこそがセガが提唱してきた新しい技術分野です。



SEGA

ティーズンへ。

High-tech  
Entertainment **SEGA**



# 時代の感性にマッチしたトータル事業。

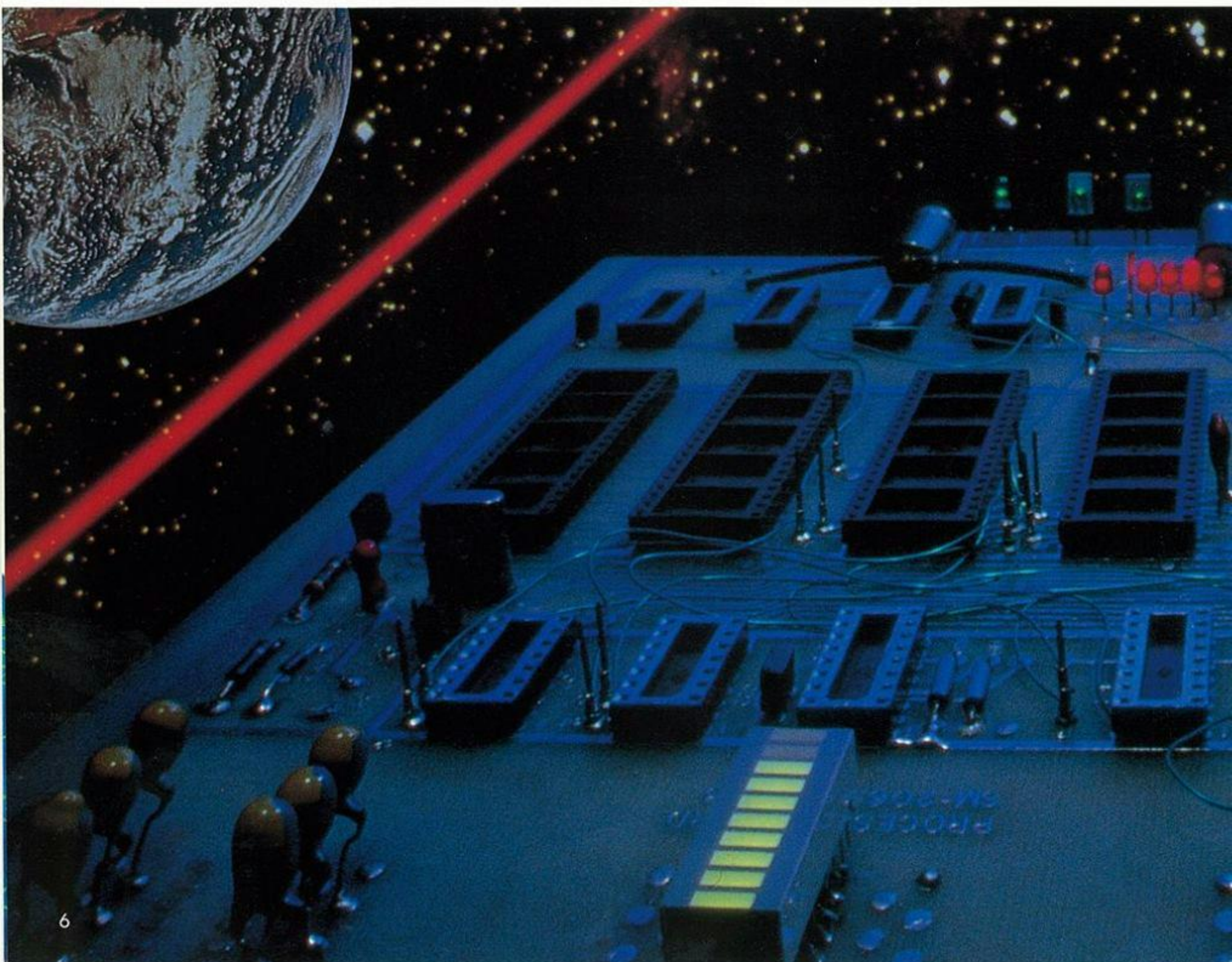
鋭敏な感性と無限のイマジネーションによって開発されたセガのアミューズメントマシンは、〔施設運営事業〕〔販売事業〕〔海外事業〕の3部門を通じて、国内・海外のユーザーに提供されています。

〔施設運営事業〕は、ロケーションの店舗設計およびその管理・運営を中心に全国に直営店が約150店舗、さらに約2,000カ所のロケーションに約4万台のマシンが設置されています。また他社に先駆けてパンチ機能付磁気カード式によるカードシステムを開発。セガ・プリペイドカードシステムとし

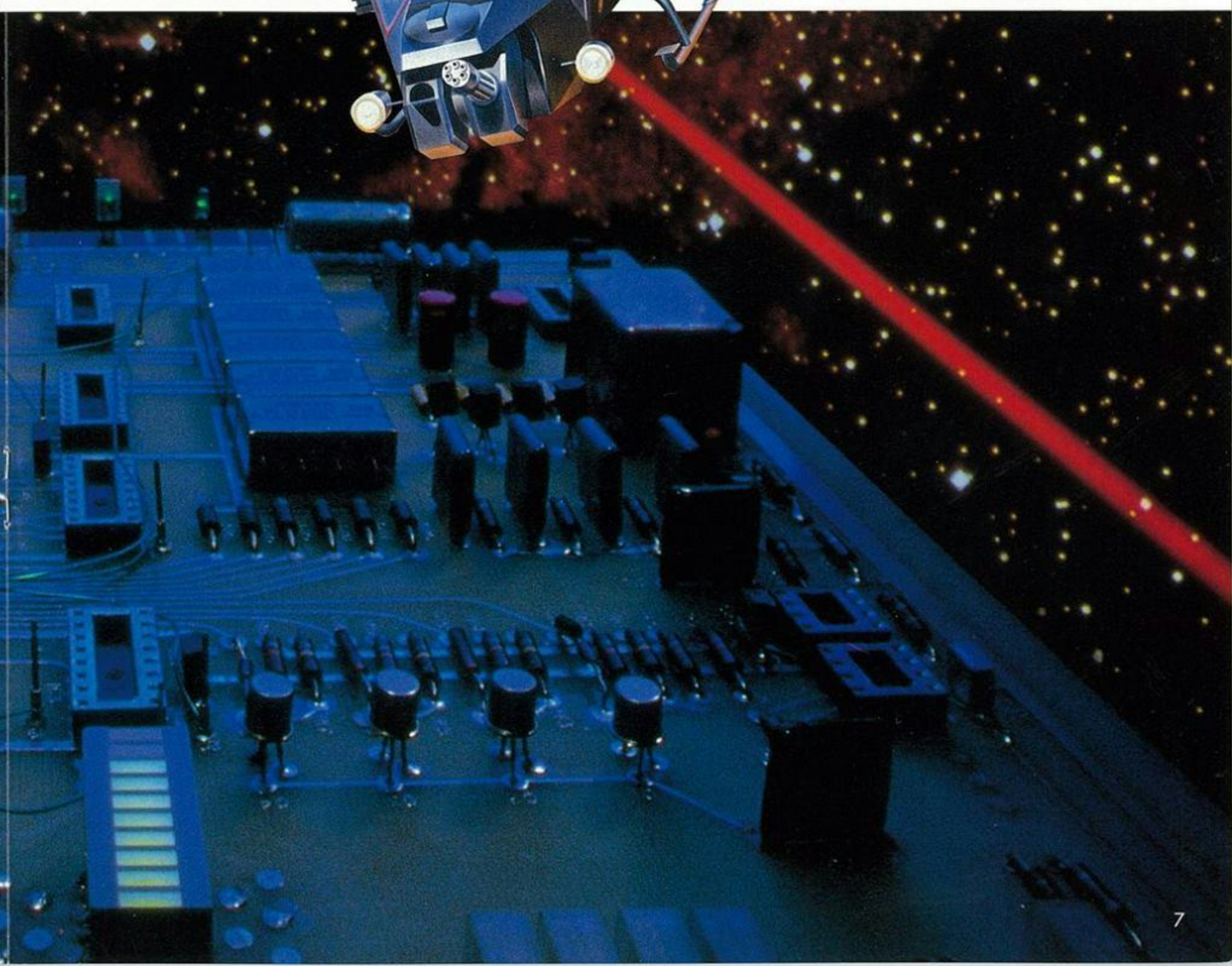
て新しい事業展開をおこなっています。また、遊びやライフスタイルの変化にあわせて、新しい形態のアミューズメント施設づくりも推進しています。

〔販売事業〕は、全国1000余の販売業者を通じて、高品質で市場性の高い製品を提供しています。また従来のゲームセンターのみならず、ハイテクエンターテインメントをキー・コンセプトとする新しいアミューズメント空間への商品展開や総合的なレジャー施設の企画・設計、そしてセガ・プリペイドカードシステムなど新しい分野への進出を

推進しています。これらの事業の販売実績は“体感シリーズ”の施設活性化とともに、他の追随を許さないものがあります。







# ホームエレクトロニクス時代誕生の核として。

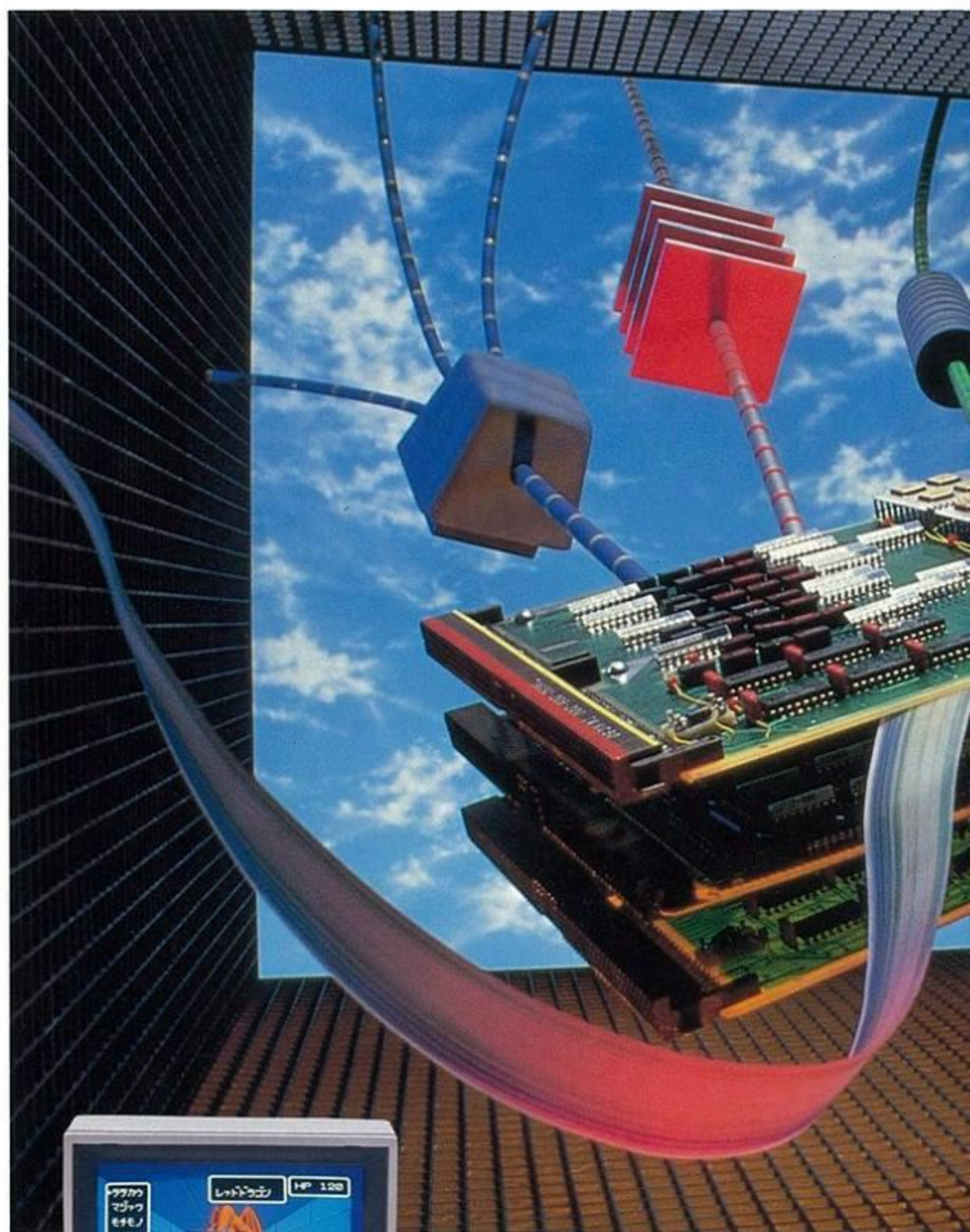
## ホームエンターテインメント とホームエデュケーション

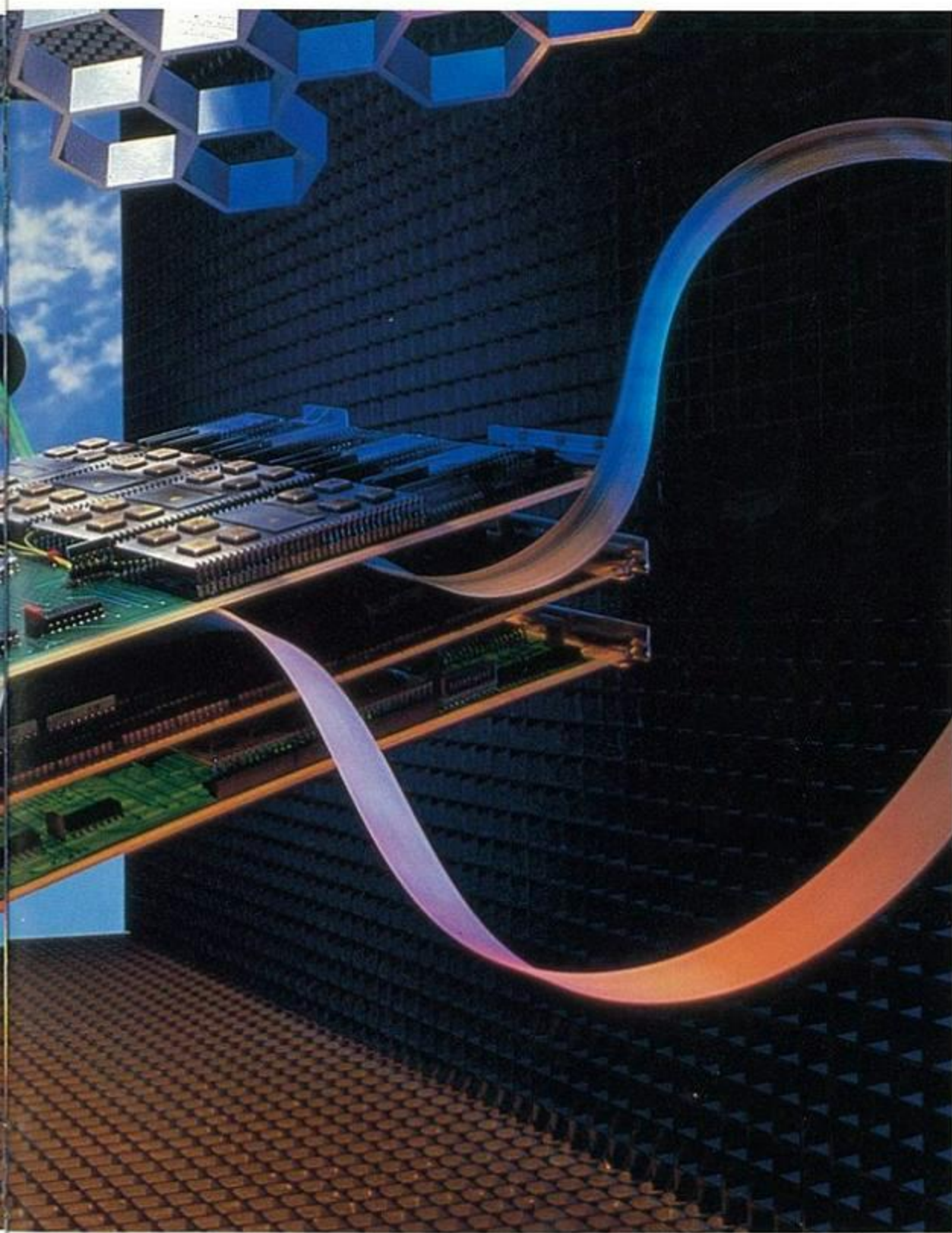
ホームエレクトロニクス時代に先がけて、昭和58年、セガはパーソナルコンピュータを発売。以来コンシューマ製品はセガの経営戦略の大きな柱になりました。パソコンやテレビゲームは圧倒的な勢いで家庭に浸透し、マーケットはめざましい拡大を遂げています。そして昭和60年には玩具分野にも進出。さらに昭和61年には「セガAIコンピュータ」を発売し、コンピュータ教育分野へ参入。コンシューマ製品の多角的な展開を繰り広げるまでに至っています。

21世紀へ向けて、限りなく豊かなホームエレクトロニクス時代の誕生のために——セガはこれからも積極的に研究、開発をおこない、コンシューマ分野における、知と遊のフィールドを広げていきます。

## 家庭用テレビゲーム

昭和58年「SG-1000」を発売以来、現在の「セガ・マスターシステム」まで、グラフィック能力の向上や立体(3-D)ゲーム機能、サウンドが楽しめるFM音源の搭載など、そのバージョンアップにつとめ先進性を取り入れてきました。またソフト面でも、アミューズメントで培った独創的なゲーム企画力と革新的なプログラムテクニックで、常にユーザーの話題を独占する斬新で市場性豊かなゲームソフトを提供してきました。また世界戦略の一つとして発売されている「セガ・マスターシステム」は、アメリカを中心に全世界で好評を博しています。この海外展開により、コンシューマ部門の成長にはいちじるしいものがあります。





## エレクトロニクス・トイ

成熟社会の到来とともに、ホームエンターテインメントの重要性がますますクローズアップされてきました。生活そのものが“知的創造活動”を中心にしたものに変化しつつあるからです。この分野にもセガは独自のコンセプトをもって参入しています。

エレクトロニクス・トイもその一つで、セガはいままでの玩具のイメージを打ち破ったユニークな世界を切り拓こうとしています。

セガはすでに、野球やテニスの相手をするロボット玩具やステレオサウンドにあわせて踊るロボット玩具、光線銃でまったく新しい遊びを提案した「ジリオン」などの新分野のエレクトロニクス・トイを発売。とくに「ジリオン」は昭和62年4月に日本テレビ系列でアクション・アニメとして番組化され、大きな話題商品となりました。また昭和63年4月からは、「超音戦士ボーグマン」を番組化し、独自のノウハウを駆使し、強力なキャラクター商品群を開発、販売していきます。



## ホームエデュケーションへの挑戦。

昭和61年3月、「セガAIコンピュータ」開発のニュースが大きな注目を集めました。それはAI(ARTIFICIAL INTELLIGENCE=人工知能)のコンシューマ分野における実用化に成功した最初の製品だったからです。

AIコンピュータで学ぶコンピュータ教材「幼児教育用ピンポンパソコンシリーズ」は、科学技術館の「母と子のパソコン移動教室」にも採用されました。これは科学技術館が全面的に監修したもので、数あるコンピュータの中から、セガAIコンピュータが選ばれたのです。幼児に無理なく、自然にコンピュータと会話できるものとして、コンピュータ教育分野に大きな使命を果しています。

また現在では、子会社のセガ・エデュケーションシステムを通じて地域密着型の幼児教室や幼児教育機器の販売、さらに語学教育で定評あるリングフォン・ジャパンに経営参加するなど幅広い教育関連事業で、ホームエデュケーションの分野にも果敢に挑戦しています。



## ホームエレクトロニクスを中心に拡充すすむ海外市場。

ホームエレクトロニクスの高度な発達により、海外でもコンシューマ製品の多角的な展開が繰り広げられています。

とくに家庭用テレビゲーム「セガ・マスターシステム」は、アメリカ大手玩具メーカー「トнка社」との提携により、上昇傾向にあるアメリカ国内のホームエンターテイメント市場を的確にとらえ、話題商品となっています。その他、アメリカ以外の世界約20カ国にセガ・マスターシステムをはじめとするコンシューマ製品群が輸出されています。



# 幅広い分野で、そのリーディングパワーを発揮 ——世界が認めた、セガ。

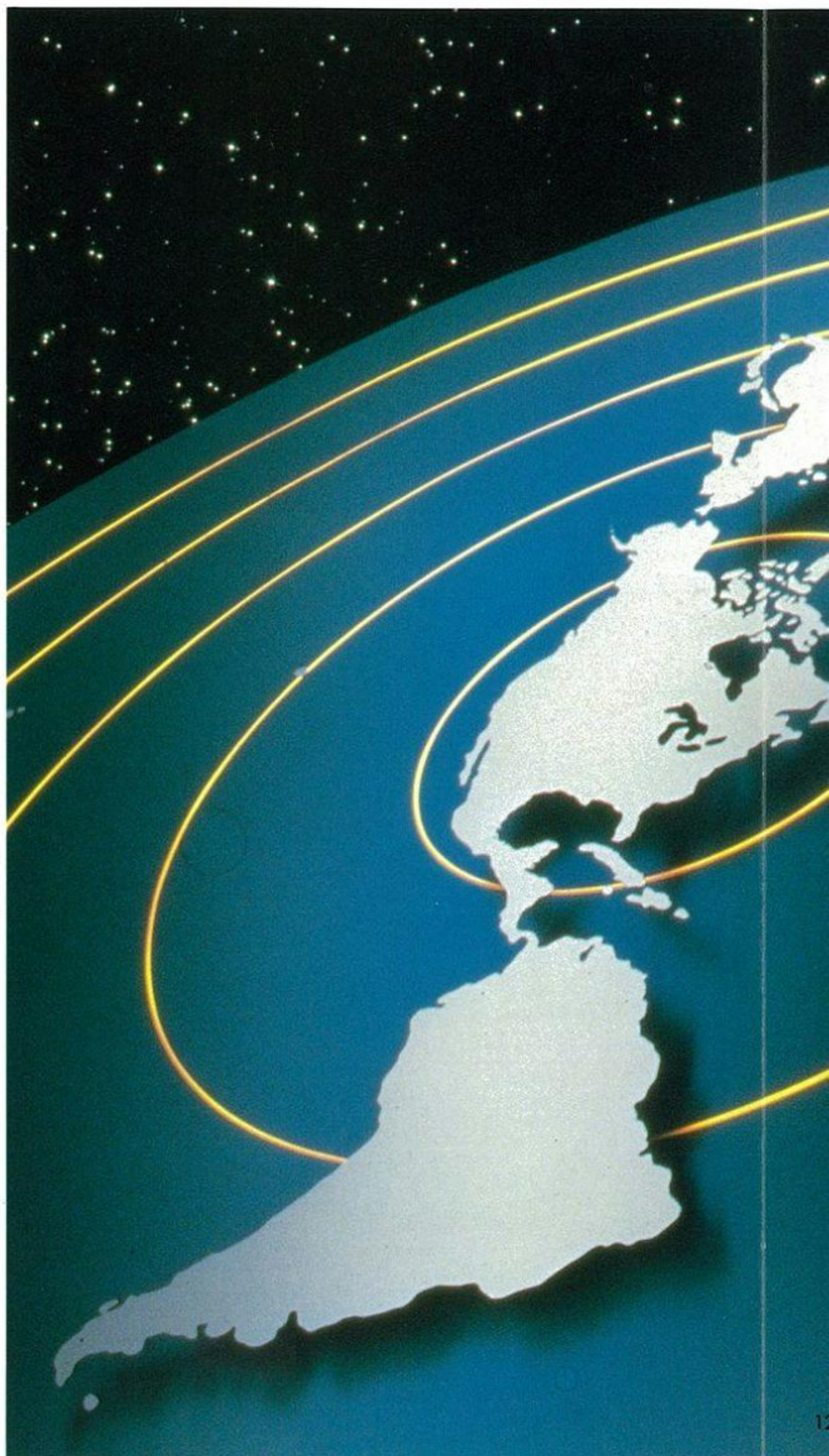
セガの製品は、アメリカ、ヨーロッパをはじめ、全世界に輸出されています。数々の業務用アミューズメントマシンをはじめホームエンターテインメントの「セガ・マスターシステム」など、世界各地でセガの製品群は活躍しています。また、円高や現地需要に即応して協力工場を拡充。アメリカ本土、ヨーロッパ、香港、台湾など、海外でいち早く生産をはじめました。

## 世界各地に広がる アミューズメント事業

アミューズメントの領域には、国境がありません。北米、南米、ヨーロッパ、オーストラリア、東南アジア、中近東、など、世界各国にセガ製品は輸出されています。

アミューズメントマシンは、完成品輸出のみでなく、ICボードを含むキット販売や、製造許諾方式によるライセンス供与も活発に行われており、各国で多数のセガ・マシンが人々を楽しませています。セガは海外市場でも、大いにリーディングパワーを発揮しているのです。

現在セガは海外拠点の拡充に力を注ぎ、アメリカ・カリフォルニア州に業務用アミューズメントマシンの販売を主業務とする「セガ・エンタープライゼス・インク」を設立。そしてゲームセンター74カ所を所有する「タイムアウト」を買収し、オペレーション体制を強化。その他ロンドンには、セガ・ヨーロッパリミテッドなど、そのパワーは全世界におよんでいます。





ホ  
ホ  
り、  
展  
とく  
シ  
ン  
メ  
場  
そ  
ガ  
ユ

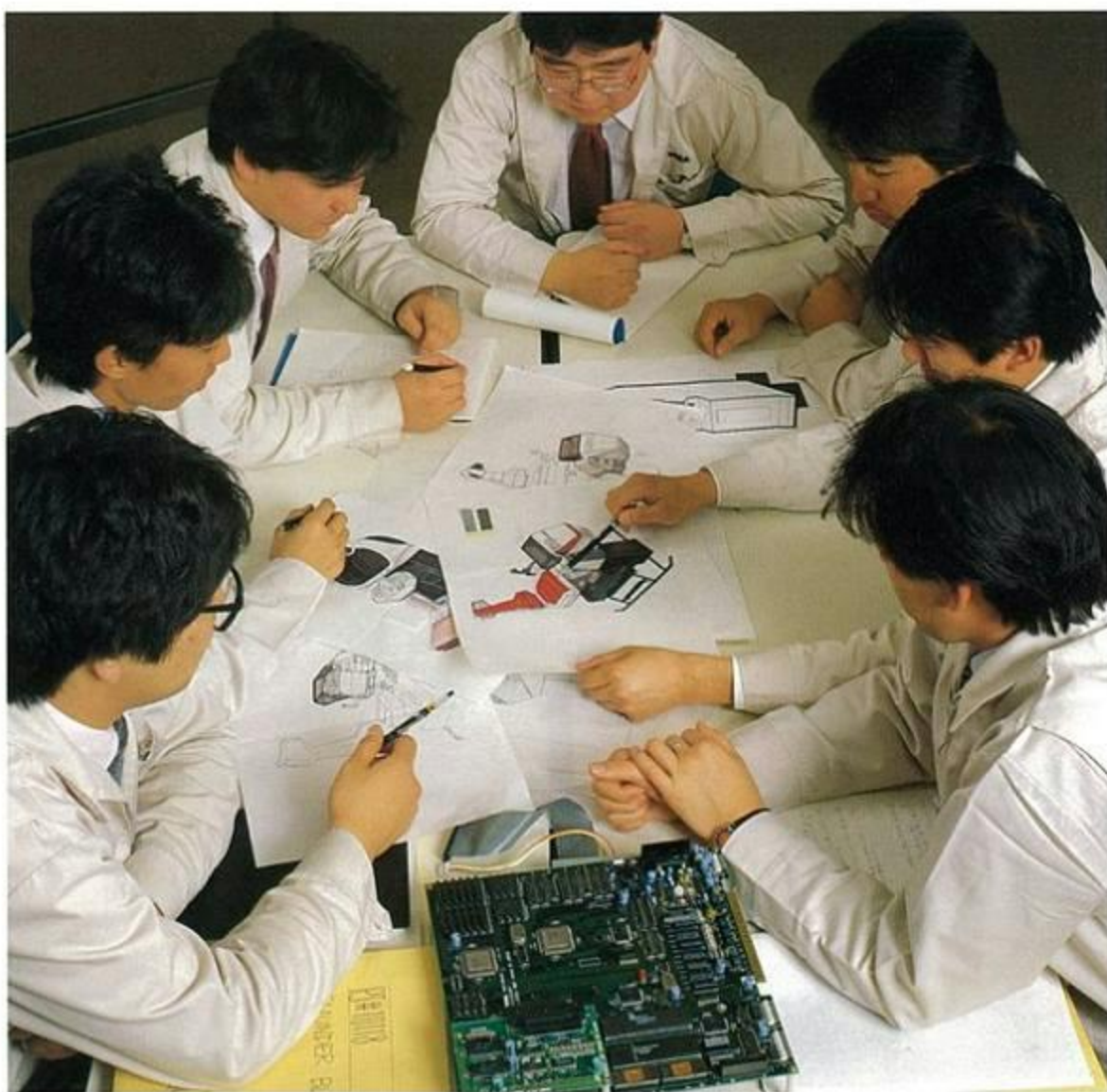
ハ  
ロ  
ン  
ロ

# 21世紀の新しいエポックを求めて ——時代のトレンドを常に予兆しながら。

## 豊かな感性と個性 ——研究開発本部

セガの各事業部門を支える原動力は、研究開発部門です。350名もの開発部員がテーマごとにプロジェクトを組み、開発に取り組んでいます。企画クリエイター、デザイナー、ソフトウェア、ハードウェア、サウンド、メカニクスなど、各分野の専門スタッフが一体となってチームを形成します。まさにテクノロジーとイメージの激しい競い合いの中から、新しい製品を生み出していく「創造」の作業です。

個性豊かな技術者たちが先端技術に取り組み、時代のさまざまなエポックを生み出していき。それは独創的なマシンを創り出すための一つのドラマといえるでしょう。



## スピーディで合理的な生産体制

“世界初”あるいは“わが国初”という数々のエポックを生み出してきたセガの歴史は、まさに技術革新の連続と最先端技術へのチャレンジの連続です。セガのエンジニアたちの部屋が、研究室のようであり、デザイン工房のようであり、設計ルームのようでもあるのは、そのためです。こうして生みだされた製品は高水準を維持するため国内・海外の協力工場における技術指導はもちろん、製造・物流部門の充実をめざして千葉県佐倉市に佐倉事業所を建設。スピーディで合理的な生産体制が整備されています。ここにも先端技術を誇るセガの、独自のノウハウが結集されています。







## トレンドを探り、未知を切り拓く

21世紀に向けて、高度情報化社会の一翼をになうセガは、いっそうの発展をとげるために、さらに遠い技術のフロンティアを追い続けています。この領域は、エマージング・テクノロジー（出現途上技術）と呼ばれ、先端技術のさらに先を行く、いわば技術の処

女地。

セガが現在手がけているAI（人工知能）による知的CAIの開発などは、その代表的なものです。セガがめざす、人間味豊かなコンピュータ社会。それを実現するためにも、まだいくつものエマージング・テクノロジー

にチャレンジし、これをクリアして行かなければなりません。時代は常に新たな技術トレンドを予兆し、セガはいち早くその流れをリードして行きます。そう、セガの21世紀はすでに始まっているのです。

事業所

- 東京本社 〒144 東京都大田区羽田1-2-12  
 TEL.03(743)7432(販売事業部)  
 03(743)7433(営業事業部)  
 03(743)7435(H・E事業本部)  
 03(743)7438(海外事業部)  
 03(743)7430(総務部)
- 札幌支店 〒062 札幌市豊平区豊平五条3-2-34  
 TEL.011(841)0248(代表)
- 関西支店 〒561 大阪府豊中市豊南町東2-5-3  
 TEL.06(334)5333(代表)
- 博多支店 〒810 福岡市中央区白金2-5-15  
 TEL.092(522)4715(代表)
- 佐倉事業所 〒285 千葉県佐倉市大作1-3-4  
 TEL.0434(98)2621(代表)

営業所一覽表 (昭和63年3月1日現在)

営業所	住 所	電話番号
札幌	062 札幌市豊平区豊平五条3丁目2-34	011(841)0248(代)
苫小牧	050 苫小牧市表町2-3-11セガ・ロイヤル内	0144(32)7945
旭川	070 旭川市三条西6丁目	0166(25)7940
帯広	085 釧路市双葉町10-21	0154(23)8826
函館	040 函館市松風町8-8ハイテクランドセガ内	0138(26)7085
青森	030 青森市大字安田字近野153-9	0177(82)5150
盛岡	020 盛岡市向中野字野原8-1	0196(35)8588
仙台	983 仙台市六丁目の赤沼4-3	022(288)1081
郡山	963 郡山市富田町字愛宕前77-7横山ビル1F	0249(51)9911
茨城	310 水戸市元吉田町1011-2	0292(47)2125
宇都宮	321 宇都宮市御幸町96	0286(61)8770
群馬	371 前橋市六供町1024ミナミビル内	0272(24)8765~6
千葉	280 千葉市高品町1589-9	0472(33)0037
埼玉	330 大宮市三橋4-551	0486(22)1828~9
新潟	950-21 新潟市小針2-38-12	0252(33)3464
東京	144 大田区羽田1-2-12	03(743)7443
東京西	185 国分寺市本多2-3-1	0423(24)5463
大和	242 大和市下鶴間甲3号617-3	0462(76)5551
横浜	232 横浜市南区宿町2-49浜文ビル1F	045(713)7411~2
湘南	238 横須賀市安浦町2-25	0468(22)3801
熱海	259-03 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-14-22	0465(63)2577
伊豆	415 下田市西本郷2-6-3	05582(2)4521
沼津	410 沼津市平町9-6	0559(62)5972
静岡	422 静岡市馬淵3-8-5毛利ビル内	0542(86)1311
浜松	430 浜松市下池川町14-8	0534(71)6952
名古屋	452 名古屋市西区中沼町118	052(502)9161(代)
金沢	921 金沢市入江3-34	0762(91)2030
富山	933 高岡市末広町元畑50-1イセビル2F	0766(21)5493
京都	601 京都市南区吉祥院嶋榎山町45	075(691)8885
大阪	561 豊中市豊南町東2-5-3	06(334)5333
神戸	650 神戸市中央区元町通1-11-19セガ・レジャービル内	078(391)5723
姫路	670 姫路市東延末2-84	0792(81)9227
岡山	700 岡山市米倉70	0862(41)1202~3
広島	730 広島市南区南蟹屋1-8-13	082(281)2411(代)
米子	683 米子市米原740-1	0859(33)7033
徳島	779-31 徳島市国府町日開字南239-5	0886(42)1874
松山	790 松山市古川北1-14-11	0899(57)5128
高松	760 高松市木太町七区3585-8	0878(33)2321
北九州	802 北九州市小倉北区熊本2-7-42	093(551)7694
福岡	810 福岡市中央区白金2-5-15	092(522)4715(代)
久留米	830 久留米市東合川15-1-38	0942(44)3595
熊本	861-21 熊本市東野2-8-14	096(368)6730
長崎	852 長崎市千歳町20-19	0958(44)0034
大分	870 大分市大字花高松2-7-15	0975(52)3361~2
宮崎	880 宮崎市鶴島3-43ドウェル88 1階	0985(23)6531
鹿児島	890 鹿児島市武1-44-9	0992(51)2092
沖縄	901-01 那覇市小禄1050清和マンション1F	0988(59)1420